

学校が禁煙なのは当たり前で、教職員や来客者も例外なくタバコは吸えません。この事は私たちには常識なので、日本じゅうの学校が禁煙だと思いこんでしまいがちですが、案外そうでもないのです。建物内だけが禁煙であったり、学校ごとの判断に任されているような地域もあったりするので、都道府県によっては、和歌山県のように県内の学校はどこも禁煙であるとは限りません。

「へー、どうして」って感じませんか。喫煙者本人よりも、その副流煙のほうが有害な事を知っている私たちにとっては、大勢の人がいる場所での喫煙行為なんて信じられない気がします。しかし、そんな事を知らない喫煙者の立場にたってみると、今まで吸えた所で吸えなくなるのは、どうにも納得いかない状況があるようです。

平成21年度の日本の喫煙率は次のとおりで、男性に限れば、まだまだ人口の4割程度は喫煙者ということになります。

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	全年齢
男性	40.3	46.9	44.9	44.5	27.8	38.9%
女性	15.9	16.8	14.9	14.8	6.2	11.9%

(JT全国喫煙者率調査)

つまり、男性が10人集まれば、そのうち4人はタバコを吸う状況ですから、まだまだ喫煙者の声は大きく、長年喫煙可能だった場所や施設を禁煙にするのは、なかなか大変なのです。

幸い、我が和歌山県は10年前から、全ての学校の敷地内禁煙が実施されていたので、君たちは小学校に入学以来、受動喫煙の害を受ける事なく、現在まで学校生活を送ってこられました。喫煙者が多い施設では、今なお受動喫煙にさらされている非喫煙者も多くいるはずですよ。

そこで、「大人になっても、一生タバコを吸わないつもり」の皆さんに期待することがあります。

「自分は吸うつもりはないけど、吸っている人に、とやかく言うつもりはない」という人がほとんどだと思います。しかも、これから社会に出て、タバコを吸っている目上の人に、偉そうな事を言えるはずもないでしょう。でも、「私はタバコを吸いません。自分のためにも周りの人のためにも」と、堂々と欲しいのです。

これからの日本を支えるのは、今の大人ではなく、これから大人になる君たちです。じつは、先週紹介した一年生の感想のなかに、和歌山弁で次のようなフレーズがありました。

…………『しっかりしな一よ、日本』…………

君たちの活躍を期待します。